

# 視覚障がい者の誘導 簡単ガイド

視覚障がい者は、全く視力がない人だけではなく、弱視の人や視野が狭い人、明るいと見えづらい人もいます。

生まれつき見えない人、途中から見えなくなった人、普段から白杖を使い一人で歩いている人、一人歩きが苦手な人もいます。盲導犬使用者も参加しています。

ガイドを必要とする場面や度合いには、個人差があります。

## 誘導の基本

ガイド者のヒジを視障者がつかむか、肩に手をのせます。ふつうは右手に白杖を持っているので（左手の人もいる）、視障者の左手側（右手側）に立ちます。

ガイド者が1歩か半歩前を歩き、その動きに従って歩きます。

階段や段差などの前では止まるかスピードを緩め、「下り（上り）階段です」など状況を説明し、白杖や足先で確認してもらってから歩き出します。

狭いところはガイド者が右手（左手）を背中に引けば後ろに付いて歩けますが、できるだけ二人分の幅を取れる道を選びましょう。

足元だけではなく、横のでっぱりや頭上の木の枝・看板にも注意してください。

盲導犬はハーネスを付けているときは工作中です。見つめたり、撫でたり、声をかけたりしないでください。使用者には状況を説明したり、必要に応じてヒジや肩を貸して誘導してください。

## ポイント

スピードは速からず、遅からず。

自然に動きが伝わるように、腕や肩に力を入れない。

声かけを忘れずに。

的確な言葉かけは状況を知らせることができ、安全に歩くことができるだけでなく、どんなサポートが必要かなど視障者からもお願いしやすくなります。

## こんな時は？

着席の時 ➡イスの背に触れると向きもわかりやすい。

ものを渡す時 ➡言葉かけを忘れずに。特に熱いものやこぼれやすいものは手を触れさせ、確実に確認できるようにしてください。

置いてあったものを動かす時は必ず、そのことを伝えてください。

トイレの案内 ➡和式か洋式か、便器の位置や向き、ペーパー・水洗の場所と方式。

ドアの開閉ボタンがある場合はその位置を知らせてください。

洗面所では水洗の方式を説明してください。

## 位置や方向を知らせるには？

指をさして「あっち、こっち」ではわからないので、「右、左」などで知らせてください。

アナログ時計の文字盤に見立てて位置を説明するとわかりやすいです（正面は12時、左は9時、斜め右前は2時など）。食事の配膳やお皿の中も説明できます。

## ワンステップ プラス！

1対1のガイドが基本ですが、状況に応じては何人かを案内することもあります。

階段を使うか、エレベーターにするかなど状況を説明し、できるだけ希望を聞いてください。

余裕ができたなら周りの様子やけしきを説明したり、会話も楽しんでください。

全視協神奈川大会 実行委員会